

令和6年度使用教科用図書採択検討委員会<高等学校専門部会>議事録

日時 令和5年(2023年)7月14日(金)15時15分~

場所 横須賀市教育研究所 第1研修室

【15:15 開会】

1 開 会

(事務局:)

本日は大変お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。この会議は「教科用図書採択検討委員会条例」第4条の規則に従い、半数以上の委員の出席により成立いたします。本日は21名中18名の出席をいただいておりますので、これより会を始めさせていただきます。

2 教育委員会事務局挨拶

(事務局:)

教育委員会事務局教育指導課長 よりご挨拶いたします。

(教育指導課長:)

改めまして皆さんこんにちは。 大変お忙しい中、本会議にご出席いただきありがとうございます。本日は8月に行われます教育委員会臨時会に議案として提出します報告の取りまとめをいただくということでお集まりいただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

特に、高等学校におきましては、目録に掲載されている教科書の中から全日制・定時制とも全ての教科書を調査対象としていただきました。このような膨大な数の中から、限られた時間で横須賀総合高等学校の生徒にふさわしい教科書という視点で調査を進めていただくことは、とても大変な作業であったと思っています。改めて、調査部会の先生方に感謝を申し上げます。

また、第1回目の会議において採択基本方針の確認をいたしましたが、再度、公正確保と綿密な調査に基づく採択原案作成へのお力添えをお願いしたいと思います。重ねてのお願いで大変恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

3 専門部会長 挨拶

(事務局:)

続いて、部会長 からご挨拶をいただきます。

(部会長)

みなさん、こんにちは。本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。また、公務ご多用な中、調査をしていただき本当にありがとうございます。ご承知の通り、高等学校におきましては、昨年度から年次進行で新しい学習指導要領に基づいた新しい教育課程によって教育活動を行っており

ますけれども、令和6年度については1年次から3年次まで新しい学習指導要領による指導ということになってまいります。ただし4年次以上については、従前の学習指導要領による指導を行うこととなります。つまり、2つの教育課程が混在する中での採択となりますけれども、本校、横須賀総合高等学校の生徒にとってよりふさわしい教科書を採択することが本会議の目的でありますので、ぜひ有意義な会にさせていただきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4 会議の進行について

(事務局：)

では、会の進行について私の方から話をさせていただきます。一覧表(様式1)の中で、ゴシック体、太字で表記してあるものは、今回新規に教科書を採択しようとする科目、及びこれまで採択していた教科書を変更しようとする科目です。3年次生のものにつきましては、ただ今、部会長 からもお話がありましたとおり、令和6年度より新たな学習指導要領によるものとなりますので、すべての教科書が新規に採択されるものとなります。4年次生のものについては、従前の学習指導要領によるものを採択していますが、例外として、定時制の45番、「音楽」については、従前の学習指導要領によるものが発行される予定がないことから、新たな学習指導要領によるもの、教科書番号701を新規に選定しています。

また、この後、各教科からご説明いただけることと思いますが、これまで使用していた教科書が発行されないという理由で、変更して採択されるものがあります。

また、教科書が発行される予定はありますが、現在見本本が発行されていない教科書が1点あります。こちら「デザイン史」については、見本本による検討はしておりません。この科目の、教科書目録に掲載されている教科書は1点のみのため、その教科書を選定しています。

なお、全日制の33番「物理基礎」、番号705については、これまで採択していた教科書を変更しようとする科目となります。

各教科の説明は、作成していただいた教科用図書一覧表、様式1の通り番号順にお願いいたします。全日制・定時制ともに13教科ですので、科目の少ない教科は時間を短縮して説明いただければと思っております。

また、工業・商業の教科については、科目ごとの説明をしては時間が足りなくなりますので、特徴的なもののみ、まとめて説明していただければ幸いです。

この後、目録をこちらから回させていただきます。こちらにそれぞれの教科で選定しようとするもの、選んでいただいたものを片仮名書きで、全日制のところに「ゼ」、定時制のところに「テ」と印をつけておりますので、もし過不足ありましたら、後ほどお知らせいただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。ろう学校のもの「ロ」と書いてあります。そちらは見えていただかなくて結構です。

それでは、この後の進行は部会長 にお願いたします。よろしくお願いいたします。

5 調査報告

(部会長)

次第に従いまして、定時制から全日制という順で審議を行ってまいります。

定時制の先生方はこれから授業がございますので、定時制の審議については 30 分程度で説明していただき、その後、質疑等を行うという段取りで行います。

また、確認ができた段階で、定時制の先生方には退席をしていただくという進行にしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。定時制は複数教科をまとめて審議いたします。

全日制は、教科ごとに、委員からの説明を各教科 3 分以内で行っていただき、その後一括して質疑を受けたいと思っております。その後、決定という流れになってまいりますのでよろしく申し上げます。説明につきましては、採択選定理由書（様式 2）に沿って行います。この会で取りまとめたものを、採択検討委員会で提案させていただきます。この後も、会議がありますので、全体が 16 時半終了を目途に考えておりますので、ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

それでは定時制の調査部員の方から報告をお願いします。

(1) 定時制

(調査部員)

それでは定時制の教科用図書採択候補について説明させていただきます。定時制の教科用図書採択候補一覧表をご覧ください。

次年度は、3 年次が新教育課程に移行いたしますので、それに伴いまして新規に選定いたしました教科用図書が次の採択候補一覧の種目番号（以下、種目番号）の教科書になります。

3 番、4 番、11 番、12 番、20 番、28 番、35 番、37 番、45 番、46 番、48 番、52 番、59 番、60 番、66 番、69 番、71 番、73 番、74 番、75 番、84 番、85 番、87 番、88 番、90 番、92 番です。

また、旧教育課程の生徒のため開講する科目のために選定した教科用図書が、採択候補一覧の教科書番号 300 番台の教科用図書です。種目番号は割愛させていただきます。ただし、8 番、47 番、51 番、53 番、58 番の教科用図書につきましては、現在使用している教科用図書が、次年度発行されないことから、新たに教科書目録より選定したもので、採択候補一覧の一番右にあります「継続・新規・変更」の欄に「変更」と表示しています。

そして、先ほど話がありましたが、「音楽」につきましては旧教育課程に基づく教科用図書が発行されないことから、新課程のものを選定し、使用する予定です。

1 年次と 2 年次が使用する教科用図書採択候補につきましては、今年度と同じものを希望しております。その理由は、各教科で今年度使用しているものが、スクールポリシー及び指導の重点に基づいて、最もふさわしく、また、使用している中で大きな問題点もないと各教科担当者で判断したからです。次年度、1 年次生と 2 年次生の使用する教科用図書採択候補につきましては、本年度と同じものということを選定理由書を提出させていただいております。

新規に選定した教科用図書につきましては、スクールポリシー及び指導の重点に基づきまして、最もふさわしいと判断して選定いたしました。以上です。

(部会長)

ありがとうございました。それでは、質疑に移ります。採択検討委員の皆様、ご質問等がありましたらお願いします。

[質疑・意見]

(委員)

質問させていただきます。その前に、前回、第1回目の時に出席できずに申し訳ございませんでした。

からお話がありましたけれども、これは全日制を含めて、非常に詳細な資料を作ってください、わかりやすく、文言も整理していただいたというふうに考えております。通常の勤務に加えて、これだけのものを作るのは大変なご苦労だったと思います。本当にご苦労様でした。

それでは、定時制は教科ごとと言うよりは、学校全体の取組についていくつかお聞きしたいと思います。

まず一つは、先ほどのご説明の中で1年の教科書は変更なしということでお聞きしました。一方で、今年度の定時制の入学者選抜において、定員が割れたというような実態があるかと思えます。そういった中で、今入ってきている1年次生と2年次生との特性の違いのようなものを、もし感じていることがあれば、お聞かせいただければと思います。

(調査部員)

定員70名のところ、人数的には定員を割れて入学生が入ってきているわけですが、生徒の様子を見ますと、ここ数年、半分以上の生徒は中学校時代不登校を経験している生徒です。しかし、不登校だということと学習に興味がないということとは全く違うのだと痛感しています。学習意欲は非常に高いです。今年度入学した生徒についても、学習意欲は非常に高いですし、その他、特別活動についての意欲も大変高く、例えば、生徒会の役員に立候補するなどする生徒が何人もいるという状況で、9月の文化祭に向けての取組が始まっていますが、そのような話し合いの場でも非常に積極的に発言し活動するというような場面も見られます。

学習に関しても、各教科の先生方のお話を聞くと非常に熱心に取り組んでいて、中学校時代に十分に身に付いていない部分があっても、意欲が大変に高いというような話をよく聞いています。

(委員)

ありがとうございます。定時制は主体性を養うことを大きなねらいとされているという中で、今後も今までの教科書と同様のものを使いながら、教科を通して、主体性を養っていくというような方向性がよくわかりました。

もう一つ、昨年度の採択の際に、教育課程にもう少しスポットを当てられないか、もう一度見直して検討するというようなお話が議事録に記載されていました。定時制全体として、今年度どのような見直しをするかについては、校内で共通理解があったとすると、どのようなことについてかお聞かせいただければと思います。

(調査部員)

定時制のカリキュラムポリシーのうち、特に個別最適な学びや、協働的な学びの実現、生徒が主体的に取り組むこと、インクルーシブ教育の視点を反映させること等について、教科用図書の選定にあたり生かしていこうと教員間で確認を行って選定作業を進めました。

(委員)

ありがとうございます。私的な感想ですけれども、教科によって、内容面に絡んだところですが、若干開きがあるかなと思いました。これから少しずつ教科内でお互いに研修しながら、どういう視点で教科書を選ぶのかということについて、できるだけ教育課程と絡めながら、具体的に表記していただけるとありがたいと思っております。

もう一点、選定理由書の細かい文言についてです。166 ページ、167 ページ、ここだけではありませんが、「生物基礎」が見開きになっていて見やすいので例に出します。教材の内容について、166 ページの新課程の方では、「学習指導要領のうち」と記載されています。ところが、167 ページの旧課程の方では「学習指導要領に示された」と記載があります。「学習指導要領のうち」とあると、ある一部分が記載されており、「学習指導要領に示された」になると全て網羅されているような印象をもつのですが、他の科目にももちろん同じような記載があるのですが、それについてご説明いただければと思います。

(調査部員)

この点につきましては誤解を招く表現だったと反省をしております。「うち」とありますが、決して一部を抜き出したということではなく、「うち」と表現されているどの教科書においても、学習指導要領上の全ての項目を網羅しており、決して一部を抜き出しているということではありません。旧課程同様に「指導要領に示された」とすべきでした。ご理解いただければと思います。

(委員)

ありがとうございます。私からは以上です。

(部会長)

その他いかがでしょうか。委員、なかなか質問が難しいかもしれませんが、もし言葉などわからないようなところもあるかもしれませんが、何かありましたらご質問いただけたらと思いますがいかがですか。

(委員)

全部1・2年次生は今年と同じということでしょうか。結構、教科書って量があって皆さん置いていかれるのかもしれないですが、文系の方と違って凄い量になるのかなのでしょうか。

また、教科書のAやBと書いてあるのがありますが、そういう違いもよくわからなくてBを選ばれているところとAを選ばれているところがあるのですが、これはどのような違いがあるのでしょうか。

(調査部員)

教科書のABCはそれぞれの学習内容の違いを示しているものです。同じようにというのも学習内容の違いを示しているので、ある生徒は1年次に「数学A」を学び、2年次に「数学B」を学び、あるいは、ある生徒は1年次に「数学」を学び、2年次に「数学」を学ぶというように、その学習内容の中身に沿って学ぶための教科書の括りと言いますか、そういうものを表記しています。総合学科ですので、総合選択科目に入っている科目についてはAも履修しBも履修するという生徒もいれば、Aも履修せずBも履修しないという生徒もあり、必修科目以外の科目については生徒によって履修する履修しないが、あるということです。

(委員)

ありがとうございます。4年次生とかすごく教科書の量が多いので、種類がいろいろあるのだとは思いますが、同じ数学でも4年次生の方は何冊持つのだろうか、それを全て使われるのかなとか、そういったことはいかがでしょうか。

(調査部員)

全てを履修するわけではなく選択履修ですので、全く履修しない科目もあります。生徒によって科目数に差は出るのですが、物凄く多いというようなことはないと思っています。一週間の授業数は限られていますので、その中で本人の興味関心に基づいて科目を選択して履修することになっています。ただ、全ての生徒の興味関心にできるだけ答えたいということで、教員側としては可能な限り多くの科目の教科書を選定しておく必要があり、このような数になっています。

(委員)

ありがとうございます。

(部会長)

総合高校は選択科目が多いので、生徒が幅広く選べるようにしてあるからこそ、これだけのたくさんの教科書を用意しているということ、ただしこれらを全て持ち運ぶといったことはないということです。よろしいでしょうか。

(部会長)

他にご質問、ご意見等はよろしいでしょうか。

[な し]

(部会長：)

では、定時制の質疑応答については以上とさせていただきます。

続きまして、全日制に移ります。全日制は先ほど申し上げましたように、教科ごと調査部員から報告をしていただきます。全ての調査部員の報告が終わった後、一括で質問ご意見等を伺いますのでよろしくお願いいたします。では、全日制国語からよろしくお願いいたします

国語

(調査部員)

1年次の必修科目である「現代の国語」と「言語文化」の2科目の教科書については、継続です。「現代の国語」は、第一学習社の『高等学校 精選現代の国語』、「言語文化」は、第一学習社の『高等学校 精選言語文化』を選定していますが、どちらも最初に学習のねらいが明確に示され、教材の意図を共有しながら取り組むことに適しています。また、具体的な活動を通して表現力や想像力を広げながら他者と伝え合う能力の育成ができるよう教材が設定されており、充実した対話的・協働的な学習活動を行えることから、引き続き選定いたしました。

2・3年次生の共通履修の選択科目である「論理国語」・「文学国語」・「古典探究」の3科目の教科書につきましても、継続です。本校の学習指導の重点「自学自習の精神の確立」にふさわしい教科書として、「論理国語」は、社会で生きるために必要な国語力を培うため、論理的な文章や実用的な文章を読み書きし、思考力や表現力を高めることに適した教材が、わかりやすい学習活動とともに配置されている三省堂の『新 論理国語』を選定しました。「文学国語」は、我が国の言語文化に対する理解を深めるための知識・技能を体系的に学習できる数研出版の『文学国語』を選定しました。資料・図版が随所に掲載され、二次元コードから理解を深める学習コンテンツが充実しており深い学びが期待できます。「古典探究」は、段階を踏んで学習を進め、多様な角度から関心を高めて読み深めることができる東京書籍の『新編古典探究』を選定しました。

最後に「古典B」ですが、旧教育課程の必修科目で、次年度で履修しなければいけない生徒のための科目です。本年度使用している教科書が廃版となるため、さまざまなジャンルから長短のバランスのとれた古文・漢文教材を採録していること、また生徒の古典に対する学習意欲が高められるような資料が豊富に掲載されていることから、東京書籍の『新編古典B』を選定しました。以上です。

(部会長)

続きまして、地理歴史科お願いいたします。

地理歴史

(調査部員)

地理歴史科は、昨年度開講した「歴史総合」、今年度から開講している「地理総合」、「世界史探究」、「日本史探究」、来年度から開講する「地理探究」の5科目の教科書を選定しています。

「歴史総合」は、現代社会を意識し、自ら学ぶ意識を高める教材を多く配置している、山川出版社の『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』を昨年に引き続き選定いたしました。「地理総合」は、本校全日制の学習指導の重点である自学自習の精神の確立にふさわしいものとして、写真や図表と因果関係が分かりやすく、地理的な見方・考え方を働かせた学習ができるという理由で、帝国書院の『高等学校 新地理総合』を引き続き選定いたしました。

探究科目では、本校のスクールポリシー及び学習指導の重点である自学自習の精神の確立を鑑み、知識・技能と思考力・判断力を身につける学習、自学自習のしやすさを考慮しました。また、生徒が課題意識をもって主体的に学習に取り組めることや本文の分量も適量であることから、「世界史探究」は、実教出版の『世界史探究』、「日本史探究」は、山川出版社の『詳説日本史』を選定いたしました。

「地理探究」は、本校のスクールポリシー及び自学自習の精神の確立という本校全日制の学習指導の重点にふさわしいものであること、豊富な写真や図表によって、地理的な見方・考え方を働かせた学習ができること、また最新の具体事例を数多く扱うことで、興味関心を高め、理解を深める工夫が成されていること、さらに系統地理の分野と地誌の分野の基礎的な知識を網羅したうえで資料や様々なコラムを作品と合わせて用いることで発展的な学習に無理なく進められるように工夫されていること、内容が精選されていることから、帝国書院『新詳 地理探究』が本校生徒に最も適していると判断し、本書を選定いたしました。以上です。

(部会長)

続きまして、公民科お願いいたします。

公民

(調査部員)

公民科は「公共」、「倫理」、「政治経済」の3科目となっております。

まず、「公共」ですが、この科目は2年次生が全員履修することとなります。図版や写真などが本文上部にまとめて記載されており、本文に関連する資料が見やすいこと、また中学校で学習した用語に赤下線が引かれていて、中学校公民とのつながりが重視されていることから、数研出版『新版 公共』が本校生徒に最も適していると判断し、本書を継続して選定いたしました。

次に、「倫理」です。3年次生のための選択科目となりますが、次年度より新課程と

なるため、新規に選定いたしました。「倫理」は、単元の始めに学習の観点を示したリード文と問いかけが記述されていること、各ページ右端に単元の学習観点がまとめられていることから実教出版の『詳述倫理』を選定いたしました。

最後に、3年次生のみを選択科目である「政治・経済」ですが、「政治・経済」も「倫理」と同じように新規に選定いたしました。地図やグラフなどが豊富で適切に掲載されていること、本文が分かりやすく記述してあり、さらに現代の最新の社会問題なども生徒が興味・関心が持てるよう記述してあることなどから、清水書院の『高等学校 政治・経済』を選定いたしました。

「倫理」と「政治・経済」に関しては、4年次生のために旧課程の教科書も選定いたしました。人間の生き方を探ることに主題が置かれていること、写真などの資料に、社会性の高い作品を使用していることから、山川出版社『現代の倫理 改訂版』が本校生徒に最も適していると判断し、本書を継続して選定いたしました。「政治・経済」は、前年度に引き続き豊富な情報を分かりやすく記述していることから、清水書院『高等学校 現代政治・経済 新訂版』を選定いたしました。以上です。

(部会長)

続きまして、数学科お願いいたします。

数学

(調査部員)

数学は、「数学Ⅰ」・「数学Ⅱ」・「数学Ⅲ」・「数学A」・「数学B」・「数学C」の6科目あります。次年度は、1年次から3年次まで新課程になります。「数学Ⅰ」・「数学C」に関しては新たに数研出版の『新編 数学Ⅰ』と『新編 数学C』を選定いたしました。

1・2年次生については、「数学Ⅰ」・「数学A」・「数学Ⅱ」・「数学B」で数研出版の『新編』を使用しており、基礎問題から応用問題まで段階的に学習できるよう工夫されており、生徒にとって学習しやすい教科書になっていること、また、本校のスクールポリシー及び自学自習の確立という本校全日制の学習指導の重点にふさわしいものと考えて選定いたしました。

その理由は、3点あります。

1点目、問題の解説が初学者にとって具体的でわかりやすくなっている点、

2点目、補充問題が充実していて、デジタルコンテンツなど新しい要素も取り入れられており、自学自習にも繋がる点、

3点目、例題と解答のレイアウトがとても見やすく、配色や図の示し方など、工夫されていること。

以上の理由で選定しました。なお、旧課程の教科書については、すべて継続としました。以上です。

(部会長)

続きまして、理科お願いいたします。

理科

(調査部員)

次年度、3年次生で履修する種目番号35番の啓林館『高等学校 物理』、43番の第一学習社『高等学校 生物』の2冊を新規に選定いたしました。

いずれの分野の教科書も目録にある全ての教科書を対象として検討し、本校のスクールポリシー及び自学自習の精神の確立という本校全日制の学習指導の重点にふさわしいものという共通の観点に沿って選定を行いました。

35番の啓林館『高等学校 物理』は、多くの物理実験を紹介し、実験を通して物理現象、物理法則を考えていくよう配慮されていること、身近に見られる物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解させるということを念頭において、学習の展開が必然性をもってつながるように配慮された構成となっていること、問いや例題・章末問題についても基礎的内容から発展的内容まで十分に扱っていることなどから選定いたしました。

43番の第一学習社『高等学校 生物』は、各単元が簡潔で的確な文章でまとめられており、さまざまな補足資料や多くの問いが本文の理解を深め発展させていくうえで有効であること、また、豊富な「問い」、「整理」、「章末問題」、「Check」などの設定があり、主体的に学習できるよう工夫されていることから選定いたしました。

続きまして継続する教科書についてです。継続する教科書につきましては、生徒の興味関心を喚起できるか、自学自習の助けとなるか、資料が明確で理解の助けになるか等の観点から全ての教科書を再検討した結果、5冊を継続して選定いたしました。

また、旧課程の教科書として、6冊を本校生徒により適したものと判断して継続して選定いたしました。

変更する教科書につきましては、4年次以上の生徒を対象として、昨年度採択したものを継続して選定する予定でしたが、廃版となってしまったため、再度、旧課程の教科書を全て再検討し、42番の数研出版『改訂版 新編 生物基礎』、44番の第一学習社『高等学校 改訂 生物』を変更して選定いたしました。どちらの教科書も、各単元が簡潔で的確な文章でコンパクトにまとめられており、参考や発展の本文とのつながりもよく、模式図や写真の配置や配色も優れている事、生徒の自学自習のしやすさの点に加えて、これまで使用していた教科書との記載事項の関連性も考慮して選定しております。

また、新課程の教科書で昨年度採択したものを変更する教科書といたしまして、33番の啓林館『高等学校 物理基礎』があります。

昨年度の検討で、僅差で選定に至った数研出版『高等学校 物理基礎』は、32ページの等加速度運動のグラフが1か所にまとめられて掲載されており、運動によるグラフの違いが理解しやすいという点を昨年度は高く評価したのですが、実際に授

業で使用すると、運動を数式化する場面でグラフが同時に見られない点や、27 ページに掲載されている質量と加速度が加工されたストロボ写真が、想定していたような生徒の発想に結びつかなかった点などいくつかの不具合が見えてきました。

また、これまで、「物理基礎」と「物理」は、別の発行者の教科書を選定していましたが、今年度新規に選定した啓林館『高等学校 物理』との間で、例えば熱力学の第一法則の記載内容や仕事を表す公式などに用いられる文字や記述に違いが有り、このまま、数研出版『高等学校 物理基礎』を連続して使用するよりも、基礎から発展へ継続して学習する生徒に、余計な混乱を生じさせる原因となる事を避けることを考慮し、「物理基礎」と「物理」を同じ発行者にした方がよいと判断しました。

この教科書は、熱運動について詳細に記述されており力学と熱力学のつながりが意識されていること、振動数と音階の関係の図等もあり、他の科目・教科との関連も随所に意識されていることや図や写真が明瞭であり視覚的に理解を促すことができることなど、優れた点が多い事からに変更して選定をいたしました。以上です。

(部会長)

続きまして、保健体育お願いいたします。

保健体育

(調査部員)

「保健体育」では3冊の候補の中から、大修館出版『新高等保健体育』を選定いたしました。この教科書は見開き2ページで1単位時間分の内容にまとめられているため、生徒にとって学習しやすくなっております。さらに授業で得た知識を活用し、実生活に結びつけられるよう学習課題が提示されています。

また、グループ活動で健康課題に対し議論することができるなど、主体的・対話的で深い学びに向けたものとなっており、生徒の学習を深められるものとなっております。その他にも豊富なイラストや図表、写真の配置がとても見やすく学習しやすく構成されております。以上のことから、継続して選定いたしました。また、旧課程の生徒向けに大修館出版『現代高等保健体育改訂版』も、継続して選定しております。以上になります。

(部会長)

続きまして、芸術お願いいたします。

芸術

(調査部員)

1年次生の必修選択科目の「音楽」、2・3年次生が選択する「音楽」は継続して選定した教科書になります。いずれも、生徒の習熟度に応じて主体的に学習していくのに最も適していると判断し、継続して選定いたしました。

3年次生が次年度に選択する新課程の音楽は、より主体的な学習に取り組みますので、一番適しているということで選定いたしました。この点を踏まえ、一番適切

であると判断し教育芸術社の『Joy of Music』を選定いたしました。

1年次生の必修選択科目の美術は、継続の教科書になります。具体的なプロセス例が多く掲載されている光村図書『美術1』が、己の主題を見つけ出し、自ら調べ制作へ向かうことのできる本校生徒にとって、授業における主体的・対話的な学びを進めていくうえで最も適していると判断し、継続して選定いたしました。

1年次生の必修選択科目の「書道」、2・3年次生が選択する「書道」、現3年次生で芸術科目未履修の生徒が履修する旧課程「書道」は、継続の教科書になります。いずれも生徒の学習意欲を引き出し、効果的な学習ができることから、継続して選定いたしました。

3年次生が選択する新課程の「書道」で選定している教育図書の『書』は、作品の表現効果や書の伝統を意識させる内容が特徴的です。また、図版が非常に豊富で学習の幅が広がるように工夫されている点から適切と判断し、選定いたしました。以上です。

(部会長)

続きまして、外国語お願いいたします。

外国語

(調査部員代理)

外国語は、令和4年度より実施されている新学習指導要領に基づく、「英語コミュニケーション」、「論理・表現」を中心に説明いたします。これらの科目は、本校の3年次の生徒が選択科目として履修します。

「英語コミュニケーション」は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの4技能に加え、話すことをさらに「やり取り」と「発表」の2つと捉えて5領域とし、言語活動を通じて5領域を総合的に扱うことを一層重視する科目として創設されました。この創設の意図を十分に踏まえ、4技能5領域を意識した統合型活動が適切に設けられ、様々な分野のテーマを身近な話題を切り口に、本校の生徒が関心・意欲を高く寄せながら読み進めることができるようになってきていることに加え、読んだ後には、生徒の思考力、判断力、表現力を伸長できる活動が設けられていること、また学びの連続性を考慮し、既習事項からより発展的に学習できるように数研出版『BLUE MARBLE English Communication』が本校生徒に最も適していると判断し、本書を選定いたしました。

「論理・表現」は、話すこと、書くことを中心とした発信力を強化するため、統合的な言語活動を通じてスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを扱う科目として創設されました。この創設の意図を十分に踏まえ、「やり取り」「発表」「書く」の3領域を明確に意識させた活動がバランスよく配置されている点や、本校の生徒が学習したことを「目的・場面・状況」に応じて適切に使うことができるように工夫されている点、また学びの連続性を考慮し、既習事項からより発展的に学習できるように『Genius English Logic and Expression』が本校の生徒に最も適していると判断し、本書を選定いたしました。

次に、旧課程科目の「コミュニケーション英語」と「コミュニケーション英語」です。この科目は、現3年次生が未履修となった際に履修する科目です。本年度使用している教科書が廃版となるため、新たに選定いたしました。内容としては、現在採択している教科書同様に、英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために様々な工夫がされており、本校生徒に最も適していると判断し、「コミュニケーション英語」は『All Aboard! Communicaiton English』、「コミュニケーション英語」は『All Aboard! Communicaiton English』を選定いたしました。

その他の教科書については、選定理由書に記載した内容のとおり、本校の生徒に最もふさわしいと判断し、継続して選定いたしました。以上です。

(部会長)

続きまして、家庭科お願いいたします。

家庭

(調査部員)

家庭科は、「家庭基礎」、「ファッション造形基礎」、「フードデザイン」、「保育基礎」の4科目ですが、「保育基礎」は、旧課程においては「子どもの発達と保育」という科目名でしたので、その教科書も選定しています。

必履修科目である旧課程の「家庭基礎」の教科書についてですが、昨年度まで使用していた教育図書『高等学校 家庭基礎 グローバル&サステナビリティ』が廃版となるため、教科書目録にある全ての教科書を検討し、本校が取り組んでいるESD(持続可能な開発のための教育)と自学自習の精神の確立という学習指導の重点にふさわしいものとして、実教出版の『新家庭基礎21』に変更いたしました。

それ以外の教科書につきましては、教科書目録にある全ての教科書を再度検討し、また、教科書目録に教科書が一つしか記載がない場合も詳細に検討したうえで、本校生徒に最も適していると判断し、継続して選定いたしました。以上です。

(部会長)

続きまして、情報お願いいたします。

情報

(調査部員)

「情報1」は、人工知能・IoT・不正アクセス・情報漏洩についても取扱いがあり、暗号化はイラストで平易化されていること、また、情報社会・デジタル・ネットワークの内容が單元ごとにまとめられており、深く理解させる内容も網羅している点を評価し、実教出版の『高等情報 Python』を継続して選定いたしました。

「社会と情報」は、旧課程の必履修科目であるため、現3年次生が未履修となった際に使用します。單元ごとに数ページでまとめてあり、内容が網羅されているところを評価し、実教出版の『高校社会と情報 新訂版』を選定いたしました。

旧課程の現3年次生が使用する『ネットワークシステム』は、図や写真を多く取り入れて、分かりやすく解説しているところを評価し、継続して選定いたしました。新課程の「ネットワークシステム」は、文部科学省著作教科書として唯一発行されている実教出版の『ネットワークシステム』を希望します。

「情報の表現と管理」は、新・旧課程ともに学習指導要領に沿った内容の文章に加え、図や写真を多数取り入れて、理解度が深まるように工夫し、解説しているところを評価しました。情報を表現するために必要な知識と技法を段階的にわかりやすく記述しているところも評価し、選定いたしました。以上です。

(部会長)

続きまして、工業お願いいたします。

工業

(調査部員)

工業科の教科書についても新教育課程の実施に伴い改訂がなされ、今年度、多くの科目で新課程用の教科書に移行しました。大方の科目については実質1者からの発行となっており、ほとんどの科目は、昨年度から使用している教科書を継続して選定いたしました。

種目番号81番『機械工作1』については、今年度使用しているものを継続して選定いたしました。『機械工作2』も合わせて選択すると本校のカリキュラムでは時間数不足になることから、『機械工作1』に独自教材を加えて使用することを選択し、次年度も同じ方針としました。

種目番号89番『建築計画』については、新課程の教科書を新たに選定いたしました。社会の変化に伴い、バリアフリー、建築物の防火や地震への対策も扱われ、環境対策としてのゼロエネルギービルやゼロエネルギーハウスであるZEBやZEHについても扱われています。壁の断熱性や熱の伝わり方などを教えるところがありますが、教科書で計算式が明確に示されていることはもちろん、分かりやすい図とともに段階をおって単純な壁から中に断熱材が入ったようなものというように進んでいるので、これを利用して生徒たちがグループで検討しながら問題を解いていくことができるようになってきていることから、実教出版の『建築計画』を新たに選定いたしました。

なお、種目番号92番の『デザイン史』についても、新課程の教科書を新たに選定いたしました。以上です。

(部会長)

続きまして、商業お願いいたします。

商業

(調査部員)

商業科は、来年度新規に開講する「ビジネス法規」、「観光ビジネス」と、新課程

となる「財務会計 」、 「原価計算」について説明いたします。

種目番号 103 番の実教出版『新財務会計 』は、図表が多く取り入れられており、文章の表現も平易かつ簡潔で丁寧にわかりやすく書かれていること、また重要な会計処理手続きについて関連する法令や会計基準の説明がなされ、手続きの根拠が理解しやすい工夫がされている点などから本書を選定いたしました。

種目番号 105 番の実教出版『原価計算』は、図解などで色分けされているため視覚的にも理解しやすく、記帳体系の流れや学習内容がイメージしやすいこと、また、グループワークや調べ学習の課題も掲載されており、思考を深める工夫がされている点などから、本書を選定いたしました。

残りの2つは、来年度新規に開講する科目になります。種目番号 107 番の東京法令出版『ビジネス法規』は、課題解決意識を持って学習に臨めるように工夫がされていること、またビジネス活動における新たな課題に対して生徒同士が協働学習を通して思考力を深めることができる学習内容となっていることから、本書を選定いたしました。

最後に、種目番号 108 番の東京法令出版『観光ビジネス』ですが、観光への取り組みがわかる実例と写真が多く掲載されているので、生徒が興味・関心をもって学習を進めることができます。また、主体的・対話的で深い学びの実現につながる課題が各所にあり、観光ビジネスに関わる思考を深められるように工夫されていることなどから、本書を選定いたしました。以上です。

(部会長)

それでは最後に、福祉お願いいたします。

福祉

(調査部員)

新課程の『社会福祉基礎』、『生活支援技術』、『こころとからだの理解』は継続、『コミュニケーション技術』は新規に選定いたしました。教科書目録に記載されている教科書は1冊なのですが、どの教科書においても、身近で豊富な事例が示されていることで、生徒が主体的に学習に取り組めるように促し、職業人としての資質を身に付けられるように工夫されています。また、最新の資料が数多く使われており、図表も見やすく配置されていることから、本文の内容が理解しやすく、本校生徒が基礎的な知識や技術を習得し、思考を深めていくために適切であると判断し、選定いたしました。以上です。

6 質疑応答

(部会長)

それでは質疑応答に移ります。質問のある方はいらっしゃいますか。

(委員)

それでは、選定理由書 98 ページ『デザイン史』についてです。見本本がない、とのことでしたが、この教科書の中身について、いつ頃、先生が知ることができるのか、また、そのことによってどのように次年度のカリキュラム、授業計画を組もうと思っていられるのか、お伺いできればと思います。

(調査部員)

出版社の方に尋ねたところ、内容を見せていただけるのは2月ということになっているそうです。

予定している授業の方向性としては、日本並び西洋の過去から現代に至るまでの文化及び社会の移り変わりを把握させながら、その時代ごとに生まれてきたデザインの持つ特徴を理解させる授業形態を現在ではとっています。

「デザイン史」の教科書により各単元の日本、それから西洋の文化を知ること、工業デザインを映像または教科書とカラー印刷による補足資料などを使いながら建築から日常生活用品、やかんやホチキス、看板にいたるまでの工業デザイン等の歴史を学んでいく授業を予定しています。もちろん新しい教科書が発行されますので、その内容に応じて対応してくる部分が出てくると思います。以上です。

(委員)

2月ということで、結構タイトですね。すでに授業計画は事前に練っておいて、その授業計画に基づいて教科書のこのページがうまく使えるというようなことを検討していくというようなイメージでよろしいでしょうか。

(調査部員)

そのように対応してまいりたいと思います。

(委員)

はい、大変でしょうけどもよろしく願いいたします。続けて、お願いします。39 ページの種目番号 35 番の啓林館『高等学校 物理基礎』だけが、本年度、変更ということで、先ほど川村先生の方から細かくお話をいただいて、変更の理由については十分理解していますが、理由については、選定理由書にも詳しく書いていただいても良かったかなと思いました。

これは、言葉の問題ですが、総合評価の欄の上から5行目に、「より多くの実験・観察を通して物理現象、物理法則を考えていくような配慮がなされていること」に続いて、良い点を羅列しているかと思うのですが、「本校の実態に即していること」という文章がその間に入っており、実態に即しているのは、羅列されている良い点の一部のみという印象を受けるのですが、いかがでしょうか。

(調査部員)

大変申し訳ありません。本校にある実験器具で実験ができることも含めて、取り上げた良い点については、すべて、本校の実態に即していると考え選定しております。

す。

(委員)

であれば、文章の順序を少し修正していただくとよいと思います。続けてよろしいでしょうか。スクールポリシーということで、自学自習の精神の確立という言葉が多数出てきており、それをもとに教科書を選定しているということは、よく理解したつもりなのですが、一方で、例えば、37 ページの「科学と人間生活」の教科書の選定理由の中には、「対話的、協働的な学びを通して、理解を深められるようにする」であるとか、51 ページの「地学基礎」の教科書の選定理由の中で、「主体的・対話的で深い学び」という新学習指導要領で求められる学びを表す言葉が書かれており、こういったことを意識して教科書を選定しているということは、授業形態をそういった形に変えていかれているということだと想像しました。具体的に、そのような授業を行っているという事例があればご紹介ください。

(調査部員)

地学でいいますと、地球が丸いということは今の生徒はみんな当たり前のように知っています。ですので、それを授業で教えても何も楽しくありません。そこで、丸いということをいつ知ったのかという話し合いから始めて、何を根拠に丸いと考えたのかという問いかけから、人間はいつから丸いと考えたんだろうという流れでエラトステネスの実験の様子まで導いて、それを実際に計算して、本当に丸くて、回転しているというように、生徒の学びを段階的に深化させていくことを意識して授業を行っております。

科学と人間生活では、例えば、比熱の実験等を4～5人のグループで行い、実験結果に対する考察をする際に、生徒が話し合いながら結論を導き出す過程で気づきが生まれるような授業を意識して組み立てています。

(委員)

ありがとうございます。おそらく他の教科でも、協働的な学び、発展的な学び、深い学びということを追究されていると思いますが、スクールポリシーである自学自習の精神の確立に加えて、今後そのことを選定理由の中に書かれると、受け手としてはわかりやすいかなと感じました。これは感想です。もう一点、自分自身数学が専門ですので、少し気になったのですが、スクールポリシーにある自学自習の精神の確立は重視されているという中で、選定理由書を見ていくと、分かりやすいであるとか、丁寧な説明とか、理解しやすいという言葉が非常に多く使われていますが、今、中学校で行われている数学の授業などは、どちらかという、みんなで作りに上げていく数学というような考えで、グループで考えたり、あるいは話し合いで正解を導き出したりしていくような授業が、非常に多くなってきていて、また、これが生徒に対して非常に好評であるということは間違いなことだと思うのですね。そういった中で、もちろん高等学校ですから、必修科目の「数学」と選択科目

の「数学 Ⅰ」「数学 Ⅱ」では、当然、教科書の質的なものも変わってくることも考えられますし、そういったことを考えた時に、中学校とのつながりを教科としてどのように考えて、今後、教科書を使いながら、どのように授業を展開しようとされているのかということについて、お考えがあれば少しお伺いしたいと思います

(調査部員)

本校でも、グループワークは多く取り入れています。教師が説明するだけでなく、生徒がまず教科書を見ながら、それどう考えるのかという問いかけをするような授業展開も多くあります。その際に、大部分の生徒はその教科書のページを初めて見るわけですから、その時にやはり丁寧で分かりやすい説明、分かりやすい図やグラフというのは、重要な要素であると考えています。この新編の教科書は、中学校とのつながりが意識されているところがありまして、新しい章に入るところで、ウォームアップというページがあるのですが、そこで、中学校での既習事項についての問題が掲載されています。それを、グループで取り組ませたときに、「ここはわかる。」という状況であれば、スムーズに授業に入り、「これは、わからない。」という状況であれば、少し時間をとって考えるというようなこともあります。それから、自学自習ということに関してですが、問題を全て授業の中でやりきる事はできませんので、一部は家庭学習でとか、授業でできなかった問題は家庭学習でとなった時に、問題の配列が、基礎から応用という配列になっているため、こちらの教科書を選定しているといことがございます。

(委員)

そのような授業に変えていった時の、生徒の反応、評判はいかがでしょうか。

(調査部員)

教師が一方向的に授業するよりは、生徒が主体的になるような感じはあります。

(委員)

おそらく、年度末に授業評価を取られると思うので、その中で、是非授業形態についても、生徒の声を聞いていただいて、もし好評なようであれば、そういった形にどんどんシフトしていくことを検討していいかなと思います。これは個人的な感想です。ありがとうございました

(部会長)

それでは、委員いかがでしょうか。

(委員)

本当にたくさんの教科書を今日見せていただきました。また、展示されているものも見せていただいたのですが、一つ一つの教科に関しては詳しいことは全くわかりませんし、見た時点で、文字数だったり、白黒だったりすると、面食らうものも正直ありました。おそらく、生徒もそういうところはあるのかなと思うのですが、今選定されたものを何種類も見せていただいて、すごく絵が多かったり、図があったり、脇に解説があったり、二次元コードがあったり、すごく工夫のされている教科書がたくさんありました。おそらく生徒の皆さんも、ちょっと我が子は別ですけども、もっと知りたいと思う方はやっぱり二次元コードを読んだりとか、自分で学習する時に、前のページを確認したりされるのだと思うのですが、生徒さんの評判が良かったとか、先生方が感じていらっしゃることを、今回の選定の際にも取り入れられていると思うのですが、生徒の目線で考えられたところが、もしあれば教えていただけたらなと思います。

(調査部員)

先ほどの繰り返しになってしまうのですが、ウォームアップというページでは、中学校の復習があり、それからデジタルコンテンツがあって、そこにスマホをかざすと、ここではこのような内容を勉強するよといったスライドが出てきて、動画になっているのですが、こういったもの見て学習している生徒もいると思います。以前に比べて、今の教科書には、ヒントが付いていて、非常に丁寧になってきたなという印象があります。お答えになっているかわかりませんが。

(委員)

ありがとうございます。私は、学生時代数学が苦手で、教科書にある問題をとにかく片っ端から解くという勉強法をしていたので、数学だけは教科書が分厚くなるんです。全部解くので。そういうところで、今は、デジタルコンテンツなどあって、そういうところも見られているということがわかったので良かったです。ありがとうございます。

(部会長)

では、質問は以上にして、ご意見はございませんか。

[な し]

(部会長)

それでは、答申内容の原案決定に移りたいと思います。この内容をもって採択検討委員会に報告してもよろしいかどうかを伺います。

私も含めて、本日は4人ですが、挙手をお願いしたいと思います。報告してよろしいでしょうか。挙手をお願いします。

【総員挙手】

(部会長)

ありがとうございました。では、これをもって採択検討委員会に報告いたします。では、事務局よろしく願いいたします。

7 閉会

(事務局：)

部会長、スムーズな進行ありがとうございます。

調査部員の方は、こちらで終了となります。本日まで調査報告等作成をしていただき、ありがとうございました。また、閉会后、16:35を目安にこの場所で採択検討委員会全体会を行います。採択検討委員の皆様は準備ができるまで、こちらで待機をお願いいたします。

なお、皆様の任期につきましては8月31日までとなっており、情報公開されるまでは、委員の名前、審議内容も含め部外秘となりますので、十分お気を付けください。

今後、教育委員会での審議に向けて、調査報告について再度ご質問させていただくこともあるかもしれませんので、よろしくお願いいたします。では、閉会といたします。ありがとうございました。

【16:30 閉会】